

愛比売

2023(令和5)年度年報



音無城跡



下畑地内田遺跡



別名端谷川遺跡



石清水八幡神社参道(遍路道)



朝倉下下経田遺跡4次



宮之内遺跡

紫宸殿遺跡



はじめに

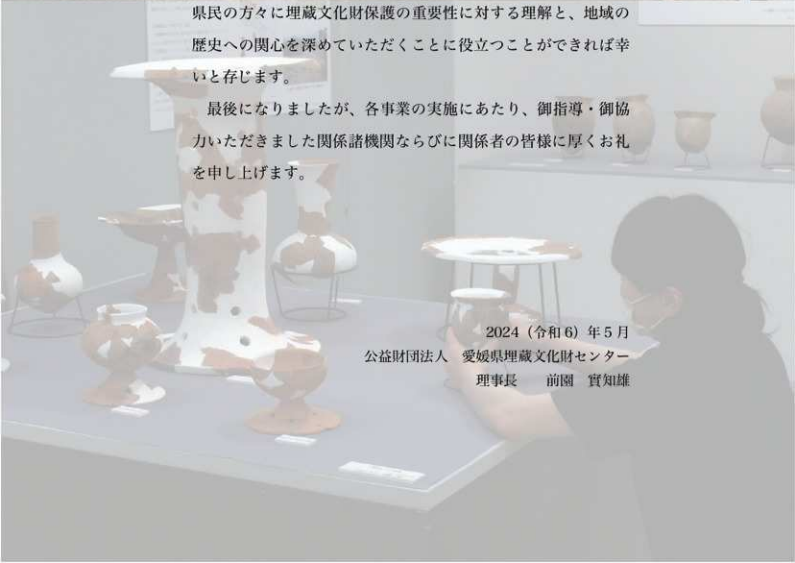
この冊子は、当センターが2023（令和5）年度に実施した発掘調査事業や普及活動事業などの概要をとりまとめたものです。

宇和島市での津島道路関連の調査は、およそ10年振りの南予地方での発掘調査となり、過年度から継続して実施している西条市や今治市・松山市での調査と合わせて、発掘調査は県下広域での実施となりました。

また、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症の位置づけとなり、皆様の御理解・御協力により普及活動事業等も以前の形式で開催できるようになりました。

本書が地域における歴史・考古学研究の資料として活用され、県民の方々に埋蔵文化財保護の重要性に対する理解と、地域の歴史への関心を深めていただくことに役立つことができれば幸いと存じます。

最後になりましたが、各事業の実施にあたり、御指導・御協力いただきました関係諸機関ならびに関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。



2024（令和6）年5月
公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
理事長 前園 實知雄

I 発掘調査と整理作業

私たちは考古学的な発掘調査、およびその成果を後世に残す報告書の作成に必要な遺物の接合・図化および各種データの分析などの整理作業をあわせて「埋蔵文化財調査」とよんでいます。

埋蔵文化財は法律により保護されていますが、道路等の開発により破壊されるものについては、開発者からの依頼を受け、記録保存を目的として、地方公共団体または当センターのような団体が埋蔵文化財調査を行います。

ここでは令和5年度に当センターが行った発掘調査および報告書の刊行を含めた整理作業について報告します。

なお、報告書を刊行した遺跡の詳細は、当センターより各図書館等に寄附している報告書および当センターホームページ掲載のPDFにてご覧いただけます。(http://ehime-maibun.or.jp/)



受託した発掘調査と整理作業

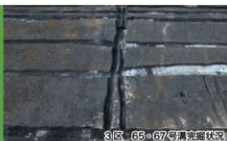
事業主体 (委託者)	事業名称	遺跡名	契約面積 (㎡)		住所	時期	備考	受託金額 (円)
			発掘調査	整理作業				
国土交通省 (愛媛県) 【一部今治市 とアロケー ション】	松山管内 埋蔵文化財 調査	C 朝倉下経田遺跡 4次	638		今治市朝倉下	弥生時代・古代・ 中世・近世		344,784,000 今治市 アロケーション + (2,253,000)
		D 新谷森ノ前遺跡 2次		総面積 (75,250)	今治市新谷	縄文時代～古墳時代	報告書刊行 (第205集)	
		E 石清水八幡神社参道 (遺跡道)	802		今治市五十嵐	中世～近世		
		F 別名堀谷川遺跡	7,097 + [1317.6]		今治市別名	弥生時代・中世・ 近世		
		新谷森ノ前遺跡 2次		7,000	今治市新谷			
		新谷古新谷遺跡 2次		5,000	今治市新田			
	新谷赤田遺跡		1,000	今治市新田				
農林水産省 (西条市)	道前平野 農地整備 事業	H 下増地内田遺跡	2,140		宇和島市津島町 下増地	中世		56,914,000
		I 音無城跡	2,800		宇和島市津島町 上増地	中世		
		A 紫宸殿遺跡	840		西条市明理川	中世		
		B 宮之内遺跡	2,719		西条市宮之内	縄文時代・古墳時代 ～古代・中世・近世		103,811,000
		北竹ノ下 I・II 遺跡 南竹ノ下遺跡		総面積 (17,135)	西条市安用			
愛媛県	松山駅 西口 南江戸線	G 辻町遺跡 4次	① 323	② 5,911	松山市南江戸	中世		① 14,752,000 ② 18,610,000

A. 紫宸殿遺跡 ししんでん いせぎ

中世後半の生産域の調査

道前平野農地整備事業

調査期間：令和5年7月～10月 調査面積：840㎡
担当者：増田結美 佐野祐樹



紫宸殿遺跡は、道前平野の中央に位置し、大明神川扇状地と西条三角州の境界付近に形成された谷底平野および氾濫原に立地しています。今回は、令和4年度調査区の北西側の調査を実施しました。

調査では、溝10条・自然流路2条を検出しました。溝は全て中世後半に構築され、昨年度と同様、古代桑村郡において施行された条里地割である正方位から西へ41度傾いた方位と、それに直交する方位に伸びています。その中で78号溝は途中で地割の方位とは異なる方角へ伸びています。遺物は出土していませんが、状況から古い段階の地割とも考えられます。また、76・77・79号溝は、ほぼ同一地点に3回構築されています。この状況は、昨年度調査区の57・71・72号溝や52・63・64号溝でも確認されています。さらに、これらの溝に90°交わる溝も、近接した位置での造り替えがみられることから、この区画が地割の中で根幹となるものであったと考えられます。

52・55・79号溝はそれぞれ調査区北西で直交し、関連性があったと考えられます。これらの溝で区画された方格地割内部は南北90m以上、東西約13mとなります。古代の坪地割は、長地型では1段が6歩×60歩、半折型では12歩×30歩となり、いずれとも合致しません。お

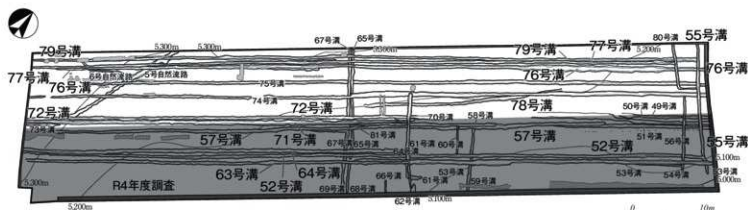
そらく構築開始時期においては、古代からの地割が変化しているものと考えられますが、地形に由来するのか地域的な様相であるのか、その他の要因も検討する必要があります。

遺物は、13世紀後半から14世紀後半の土師質土器の土釜や杯、東播系須恵器こね鉢などが出土しています。これまでの調査で、当地区では13世紀後半以降、耕作地としての本格的な利用が開始された状況が明らかになっています。しかし、建物跡など生活空間を示すような遺構は見つかっていません。水田や耕作地管理のために、さほど遠くない場所に集落は存在していたと考えられますが、これからの調査成果が俟たれます。

(増田)



3区 55・56・80号溝 完掘状況



B. 宮之内遺跡 みやのうち いせき

県内最古級の金銅五輪塔形舍利容器が出土

道前平野農地整備事業

調査期間：令和5年4月～令和6年3月 調査面積：2,719㎡
担当：池田伸吾 松原竜司 増田晴美 田中いづみ 佐野基樹



宮之内遺跡と大明神川、宮之内遺跡を写す

宮之内遺跡は、高縄山系東三方ヶ森を水源とする大明神川によって形成された左岸扇状地上に立地しています。令和4年度に1地点(6a区上層)の発掘調査を実施し、今年度は12地点(1a・1b・2a・2b・3a・3b・3d・4・5a・5b・6a・6c区)で実施しました。遺跡は中世には成立していたと考えられる郷社、宮内神社の北側に広がっており、中世には安楽寿院(京都府伏見区)が所領する吉岡荘という荘園が置かれていたことが知られるなど、古代から中世にかけての遺跡が展開することが想定されていました。

【縄文時代】

遺構は確認されていませんが、1a区から縄文時代草創期の有舌尖頭器1点が出土しました。遺跡西側の高縄山塊東部の急斜面地には、福成寺遺跡や互之上遺跡など縄文時代の遺跡が数多く確認されており、宮之内遺跡周辺まで縄文遺跡が展開する可能性が想定されます。

【古墳時代後期～古代】

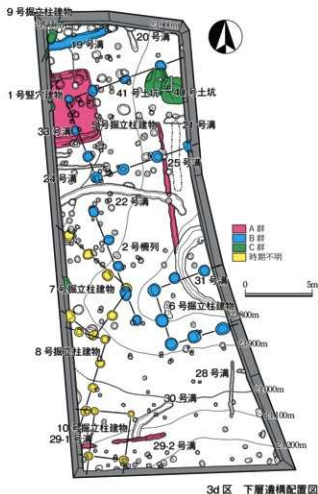
この時期の遺構は、2b区から3区にかけての微低地面に分布します。

3d区下層では6世紀末から8世紀頃の竪穴建物跡1棟・掘立柱建物跡6棟・土坑5基・溝14条・柵列1条・小穴274穴を確認しました。建物跡の建て替えの変遷などから見て、6世紀末頃・7世紀前半・7世紀後半から8世紀頃という、3期にわたる集落の変遷が想定されます。6世紀末頃に1号竪穴建物跡(正方位から10度ほど西偏)が造られた後、7世紀前半に5号・6号掘立柱建物跡(西方位から70度ほど東偏)、2号柵列などが形成され、7世紀後半以後に9号掘立柱建物跡(西方位から20度ほど東偏)へと建て替わります。

3d区で発見された7世紀以後の掘立柱建物跡は建物、柱穴の規模ともに大きく、一般集落という位置付けに留まらず、建物が官衙関連施設の一部である可能性も想起されます。周辺では、宮之内遺跡北方に所在する長網遺跡で大型の方



調査区位置図



形区画溝や倒壊に伴う瓦列などが確認されており、官衙関連施設であった可能性が考えられています。今回の発掘調査で、それらに関連する可能性をもつ建物跡を確認した意義は大きいと言えます。

また同時期のものとして、3a区下層で溝2条、3b区上層で掘立柱建物跡1棟・溝5条などが確認されており、この時期の遺構群が3区周辺に展開するものと理解されます。

さらに、西方の2b区では土坑3基・溝3条などとともに、礎石建物跡を構成する可能性をもつ柱穴2穴が確認され、8～9世紀頃のものと考えられます。

7世紀に入ると突如として掘立柱建物跡を中心とした集落が出現することが全国各地において知られていますが、今回の事例も、いわゆるブレ律令段階の立坪に伴う集落、あるいは官衙関連施設の成立と関連付けて評価することもでき、このような施設の成立を素地として後の礎石建物跡が出現していったものと理解されます。

【中世】

当遺跡ではどの調査区でも中世の遺構・遺物が確認されており、この段階には広く遺跡形成が進んだものと理解されます。

2a区では、12～16世紀の土師質土器皿、瓦器椀、黒色土器椀、東播系須恵器鉢、瓦質土器鍋・釜、備前焼甕・鉢、亀山焼系瓦質土器甕などの遺物が出土し、掘立柱建物跡1棟・土坑56基・溝21条・溝列7条・小穴434穴などが確認されています。12世紀頃と考えられる南北3間×東西1間の12号掘立柱建物跡が唯一の建物跡で、その他の遺構群が明確に中世集落を構成した要素はあまり認められません。これらの遺構に重複して少なくとも3方向の中世後半と考えられる鋤溝が多く見つかっているように、遺跡西縁の2a区周辺では耕作地が広がっていたものと想定されます。中世を通じて人為的な手が入りつつ、耕作地の境界を画するような柵列などの施設、あるいは簡易的な管理建物などが存在した可能性も想定されます。

中世前半の遺構として、6a区中層で土坑10基・溝5条・自然流路1条・小穴40穴、下層で土坑10基・小穴15穴を確認しました。この調査区では平面形が円形・方形をなす大規模な土坑が発見されており、このような土坑は6c区の調査区にまで広がって分布しています。瓦器椀・土師質土器・瓦質土器などが出土し、13～14世紀の遺構と考えられます。

51号土坑は平面形が隅丸方形で、一辺1.6m・深さ43cmの大型土坑です。この土坑からは13世紀頃の土師質土器皿・炭化物と、五輪塔形の舍利容器1点が出土しました（「舍利」は釈迦の遺骨）。土師質土器皿は周囲から流れ込んだものですが、舍利容器と炭化物はそれより下位の東寄り、底面のやや上の位置で見つかりました。

舍利容器は金銅製（銅の表面に鍍金したもので、総高25.0mm、空風輪部高6.7mm・幅6.2mm、火輪部高2.1mm・幅13.5mm、水輪部高14.2mm・幅15.0mm、地輪部高2.0mm・幅



水輪部上半内部

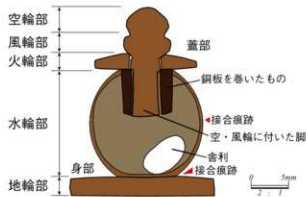


全銅五輪塔形舍利容器 展開写真

水輪部下半内部



19.2mmを測ります。全体的に小さく精緻に造られ、水輪部は上下別々に作られて中央付近で接合されています。水輪部の内部には、釈迦の遺骨に見立てた舍利として、青銅3～4粒が見られます。空風輪部の下に伸びる脚が火輪部を貫き、その下で脚に銅板を巻き付けて留めることで蓋部とし、水輪部と地輪部を身部として、その内部に舍利を納めた構造であったものと考えられます。舍利容器の表面全体には布状の繊維片が付着し、一部には平織の織物の痕跡が認められること、斜めに傾いた状態で出土し、舍利容器付近の土質が砂質状で周囲とやや異なる



全銅五輪塔形舍利容器 想定復元図

ことから、布袋に納められた状態で土坑に埋納されたものと想定されます。

金属製（銀・銅・金銅製）の五輪塔形舍利容器は、鎌倉時代以降に作られたものが多く、京都・奈良・鎌倉を中心に36例ほどの出土・伝世例が知られています。当遺跡では土坑から出土しましたが、多くは寺院に伝世したもので、木造仏の胎内や石塔（蔵骨器）内に納められて今日に遺ったもので、墓や遺跡から出土したものは少数です。

当遺跡出土の舍利容器は、各地で出土・伝世する金属製五輪塔形舍利容器の中で最小となる可能性が高く、火輪部と地輪部を扁平に薄く作る形態的な特徴から12世紀後半～13世紀前半のものと考えられます。等妙寺（鬼北町）の木造菩薩遊戯坐像（伝如意輪観音）胎内に納置された木製五輪塔形舍利容器（13世紀末～14世紀前半）、馬場五輪塔（今治市）に納置された木製五輪塔形舍利容器（14世紀前半）よりも古く、愛媛県内に現存する舍利容器の中では最古級であるものと想定されます。

中央仏師に伴う荘厳を担当する工房において高度な技術で製作されたものが、当地までもたらされたと推定でき、中世初頭には舍利信仰が地方である愛媛県（伊予国）まで浸透したことを示す事例として注目されます。

中世後半の遺構として、1a区で溝3条・自然流路1条・小穴26穴、1b区で溝2条・自然流路2条・小穴2穴、3a区で南北2間×東西1間の11号掘立柱建物跡、3d区で溝1条、4区で溝1条・小穴1穴、5b区で石組み遺構1基・土坑8基・溝1条・小穴29穴などが確認されています。集落構造はあきらかではありませんが、潜在的にこの時期の集落が展開しているものと考えられます。

これらの遺構の他に特に目を引く遺構として、大規模な土坑状・溝状をなす性格不明遺構7基を確認しました。1号性格不明遺構は長辺

約15m・短辺約6m、2号性格不明遺構は長辺約14m・短辺約4mと大規模で、溝、楕円形や長楕円形の土坑を接続させたような平面形を示しています。遺構の断面形状を見ると、底面の凹凸が激しく遺構側面がオーバーハングして強い丸みを帯びていること、粘性の高いシルト層を掘り抜き、その下に分布する砂質のシルト層まで掘削が及んでいること、遺構の埋土が人為的な短期間の埋め戻しの堆積を示していることなどから、粘土採掘坑に類する土取り坑と考えられます。この性格不明遺構は2a区の一部に集中的に分布し、近接する土坑や溝もこれらの土取り坑と一連のものと考えられます。これらの性格不明遺構からは中世全般の土師質土器・備前焼・亀山焼系瓦質土器・瓦質土器・青白磁などが出土していますが、1号性格不明遺構の底面から16世紀の備前焼甕1点が出土したことから、この時期の遺構と判断されます。

ある一時期に集中的に粘土採掘を行ったものと理解されますが、農耕地の基盤としたのか、建物土壁の部材としたのか、土器などの原料としたのか、現時点で粘土を必要とした目的ははっ



1号性格不明遺構 土層断面



1～3号性格不明遺構 築地跡

きりしません。発掘遺跡(今治市)では土器生産にとまなう中世の粘土採掘坑が見つかってはいますが、宮之内遺跡の土取り坑についても土壌分析などを踏まえて慎重に検討する必要があります。

【近世】

近世初頭の遺構として、3a区で3号横列、3d区で4号掘立柱建物跡1棟・溝1条・円形土坑7基などが確認されました。

今年度の発掘調査では、主に古墳時代後期から古代・中世の遺構・遺物が確認され、これらの時期の様相の一端が明らかとなりました。7世紀を中心とした建物跡の建て替えのあり方は、立評期の桑村郡を考える上で重要な調査成果です。また、中世を通じて集落域・耕作地・墓域などが存在し、それぞれがある程度の広がりをもって展開していたことがうかがえるようになったことは、遺跡内の空間構成を検討する上で重要です。

中世前半に目を向ければ、宮内神社周辺に中世までさかのぼる寺院の存在はあきらかではなく、それを示す地名なども遺っていませんが、今回、宮之内遺跡から金銅五輪塔形舍利容器が出土したこと、また鎌倉時代から室町時代と推定される花崗岩製五輪塔(空風輪・水輪・地輪)が周辺に点在していることから、文字資料や記録、地名にも遺らない逸名寺院が存在していたと推定できるようになりました。中世初頭に成立した寺院は、同時期に存在したと考えられる宮内神社とともに神仏習合の景観をなしていたものと理解されます。この背景には、仁平2(1152)年に大明神川上・中流域に安楽寿院領の荘園、吉岡荘が設置されたことと相まって、舍利信仰を例に見るような中央の信仰・文化が当地に移入しやすい環境が下地にあったことが想定されます。

(松葉)

C. 朝倉下下経田遺跡 4次

あさくらしもしきょうでん
いせき よし

弥生時代中期の畠か？

一般国道196号今治道路建設

調査期間：令和5年11月～令和6年1月 調査面積：638㎡

担当者：重松真也 山口尚歩 古谷里紗子



石垣市史跡調査

朝倉下下経田遺跡は今治平野の南部に所在し、西は高縄半島の中心山塊から延びる丘陵、南東は世田山・笠松山、北は霊仙山に囲まれています。周辺は朝倉南地区付近で南東から黒岩川、朝倉下地区付近で南から高大寺川が流入するなど頓田川支流が網目状に流れる環境にあります。

朝倉下下経田遺跡は過去に3度の発掘調査が行われ、今回の調査が4次調査にあたります。今回は1次調査地の北西側を1区として調査しました。

1区の調査では、弥生時代中期の畠の可能性のある遺構や、古代の性格不明土坑、中世の小穴、近世以降の溝や土坑が見つかりました。また1区全体が自然河川に含まれていることが判明し、弥生時代中期から古代まで河川が氾濫と安定を繰り返した様子が確認されました。

畠の可能性のある遺構は、畝・土手と推測される高まりからなっており、高まりを覆う土の時期から弥生時代中期後葉と考えられます。こ

の遺構については、狭い範囲での確認にとどまったため、今後、近接地の調査などで畠としての検証を行う必要があります。また、畝や土手と推測される高まりの下層の土から弥生時代中期後葉の土器や石瓦丁、柱状片刃石斧が出土しました。今回出土した弥生時代中期の遺物はさほど摩滅していないため、近隣に同時期の居住遺構が存在した可能性があります。1次調査地の一部では同時期の遺構が存在するため、これらの遺構を中心とした範囲に居住域が形成されていたとみられます。

その他の遺構としては、古代の性格不明遺構と中世の小穴が挙げられます。古代の性格不明遺構には、8世紀の須恵器の小片1点と、弥生時代中期後葉～終末期の土器片が多量に溜まっていたと考えられます。中世の小穴からは10～11世紀の土師質土器が出土しました。1区で確認できた古代や中世の遺構は、1次調査地に比べて多くはありません。高大寺川に向かって標高が下がっているため、古代や中世の集落の中心部分は1次調査地付近にあり、1区はその端にあたると思われます。

今回の調査では、弥生時代中期後葉の畠の可能性のある遺構が発見されたことから、1次調査と併せて、弥生時代中期後葉の集落域と生産域をセットで復元できる可能性のある良好な成果が得られたといえます。(山口)



道路とその周囲



遺構(穴・畠)

E. 石清水八幡神社参道（遍路道）

神仏習合の遍路道

いわしみずはちまんじんじゃ
さんどう（へんろみち）

一般国道 196 号今治道路（五十嵐地区）建設事業

調査期間：令和 5 年 2 月～3 月、調査面積：802 ㎡
担当者：三好裕之、青木聡志、佐藤裕人、岡本真治、嵐田浩吉



環境局(2)

石清水八幡神社は今治平野西南部、行政区分では今治市五十嵐に位置しています。本遺跡は五十嵐丘陵北部に立地しており、神社境内から今治平野を一望できる眺望が良い場所です。また、本遺跡北部には伊予総社と伝わる伊加奈志神社が、南西部には四国八十八ヶ所霊場第 57 番札所の栄福寺が立地しています。さらに丘陵周辺には、北部に中近世を主体とした集落遺跡である五十嵐鼻遺跡が、南東部には中世鍛冶炉群を検出した五十嵐敷下遺跡などが分布します。

今年度は今治道路開築に伴い遍路道として使われていた神社参道石段のレーザー測量を実施しました。

【神社の歴史】

石清水八幡神社が建立された年ははっきりしていませんが、12～13 世紀頃に全国で石清水八幡の荘園が広まった時期に建立されたと考え

られます。江戸時代に高野山の学僧であった寂本が執筆した『四国遍礼霊場記』では、河野親経と伊予国守に任命された源頼義によって伊予国内に 49 箇所の薬師堂と 8 箇所の八幡宮が建てられたとされています。当社はその一つで随一の規模を誇ります。また、五十嵐丘陵に建てられた理由として、京都の石清水八幡宮が所在する男山に似ていたからとも記されています。

神社参道は近世に使用された参道で、当時は神仏習合の時代のため四国八十八ヶ所霊場第 57 番札所栄福寺に続く遍路道としても使用されました。

【調査内容】

参道は神社境内を開くように南北斜面と東斜面に位置し、東側の参道は尾根伝いに、南北の参道は急斜面に沿うように作られています。今

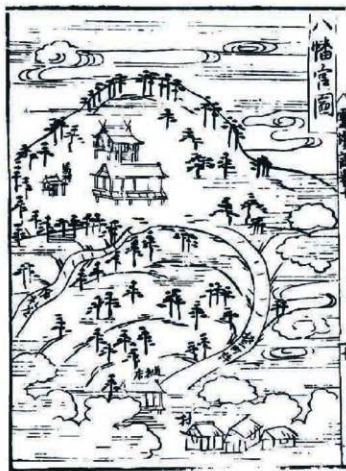


環境局(2)

回、開発に伴う北側の参道のレーザー測量調査を行いました。参道のレーザー測量調査を実施するにあたり、土砂や落ち葉・竹根に覆われている部分を取り除き、石段全体が見えるように露出作業を行いました。

参道は階段と平坦面で構成されており、階段箇所が22箇所(神社本殿のある山頂から順に1～22)、平坦面は23箇所(神社本殿のある山頂から順に1～23)確認されました。階段や石碑等の石材は花崗岩でした。平坦面はあくまで推定ですが、階段部分を作る際に削った土を盛って平坦地形を形成していると考えられます。また、平坦面8の西側と平坦面15の東側に比較的広い平坦地が形成されていました。このうち2つ目の平坦地は面積一番が広いもので、前述した『四国遍礼霊場記』の絵図に「店」と表記されている場所と推定されます。

参道は急斜面で崩れやすい地形となっている



石清水八幡神社絵図

ため、階段緑石の外側斜面には斜面の崩落防止用と考えられる円礫や角礫の石積箇所が多数確認されました。とくに、階段1の緑石西側で確認されたものは規模が大きいものでした。また、階段13では緑石北側に上下等間隔に列石が確認され、石の平たい面を上に向けて並べられていることから補強用の石ではなく旧参道の階段であると考えられます。



図録⑩ 石積箇所

参道入口に立てられている鳥居は、鳥居手前に立てられている石碑南面に「鳥居本分氏子中」、西面に「表寄進」、東面(鳥居方向)に「万延元年申八月世話人上同」と文字が彫られていることから、鳥居が万延元(1860)年に建てられたことが確認されました。階段20・21は石の面が機械で平らに整えられており、平坦面22に建てられている幟立には「昭和三十四年五月吉日」と刻まれていることから現代に入って参道が修繕・増築されていたことが確認されました。そのほか参道の階段部分に所々コンクリートやモルタルで補強されている箇所が確認されたため、明治時代以降に石段を組み直して補強されたことが明らかになりました。

来年度以降の発掘調査により、平坦地(店)を含めた遺跡の全体像が明らかになることが期待されます。

(佐藤)

F. 別名端谷川遺跡

べつみょうはしだにさん
いせき

丘陵斜面上に築かれた弥生時代前期末の環壕溝状遺構

一般国道196号今治道路建設および市道別名矢田線

調査期間：令和5年4月～令和6年1月 調査面積：8,414.6㎡
担当：三好裕之 松葉竜司 青木聡志 佐藤直人 岡本真司 堀田晴香



G区 環壕溝状遺構

別名端谷川遺跡は今治平野の北東部、行政区分では今治市別名および小泉に所在し、日高丘陵南部に形成された開折谷の丘陵尾根筋および斜面上に位置しています。本遺跡の南側には昨年度調査を実施した別名端谷I遺跡2次調査、北東側には小泉吹谷西遺跡があります。B区～J区の合計9調査区に分けて調査を実施し、弥生時代前期末・後期、中世後半、近世の遺構・遺物が確認されました。

弥生時代前期末では、G区とH区にかけて、長さ73m、幅0.25～2.34m、深さ0.2～1.8mの溝(1号・10号溝状遺構)が検出されました。この溝はG区からH区にかけてU字状にめぐり、南東方向を意識して築かれており、広義の環壕と考えられます。本遺構は大きく2層に分層され、上層から弥生時代前期末の壺や甕、サヌカ

イトの石核や薄片、にぎり拳程度の亜円礫などが多数確認され、下層では遺物がほとんど出土していません。出土した遺物から、人の居住期間は短期間であった可能性が想定されます。この溝の内部空間である丘陵頂部では、この時期の居住に関係する遺構を検出することができませんでした。これは、居住期間が短期間であったか、



G区 10号溝状遺構 遺物出土状況

後世の開発に伴う削平や雨天時の流水による旧地表面の流失などの要因が考えられます。

本遺跡の北側には弥生時代前期末～中期初頭を中心とする阿方遺跡と弥生時代中期初頭を中心とする片山遺跡が所在しています。弥生時代前期末の環壕溝状遺構の検出例は少なく、周辺地域の遺跡と比較・検討することで、当時の社会の在り様に迫ることができる可能性があります。

弥生時代後期では、G区とH区で竪穴建物が5棟確認されました。1号竪穴建物はH区の丘陵斜面に築かれ、本遺構の東側は後世の開発に伴い削平されていました。平面形は隅丸方形を呈し、長辺は5.4mを測り、周壁溝がめぐります。西側はベッド状遺構のような1段高い高まりが確認されました。内部には、五角形の支柱穴がめぐり、中央にはこれらの柱を支える柱穴が検出されています。

2号～4号竪穴建物はH区の丘陵頂部の尾根筋で検出され、平面形はいずれも円形を呈し、2号竪穴建物は直径5.7m、3号竪穴建物は直径6.1m、4号竪穴建物は直径7.9mの大きさです。これらの竪穴建物は重複しており、2号→3号→4号の順に建て替えられたと考えられます。また、南東側の溝を一貫して使用し、北西方向に向かって周壁溝が拡張していることから、別の場所に建て替えたのではなく、2号竪穴建物を拡張し



ながら建て替えたことが推測されます。

5号竪穴建物はG区南東の緩傾斜の尾根筋に位置し、大部分が削平されていますが、平面形は隅丸方形であり、残存長5.7mを測ります。周壁溝がめぐり、内部には支柱穴が4基認められ、五角形もしくは六角形の柱配置が想定されます。

これまでの周辺域の調査により、弥生時代後期の集落は丘陵裾部に広がっていることが判明していましたが、丘陵斜面や頂部にも集落が展開していることが判明し、日高丘陵の集落動態を考える上で注目されます。

中世後半の遺構は、F区とJ区で確認されました。F区とJ区が位置する斜面と平坦面の境界には、丘陵斜面から流れてきた溝を排水するための溝が確認されました。これらの溝は、F区とJ区に隣接する別名端谷I遺跡2次調査の1区・2区で確認された集落に水が流れ込むのを防ぐために構築されたと考えられます。

J区では、G区の南側から伸びる小支尾根の緩傾斜地に土坑墓が2基並んで検出されました。6号土坑では、土師質土器皿が2枚副葬され、7号土坑では亀山系瓦質土器甕が潰れた状態で確認され、土器墓であったことが推測されます。

F区とJ区の調査によって、別名端谷I遺跡2次調査で確認された中世集落の範囲を明らかにすることができ、中世集落は地山を削り出して造成した平坦面を中心に展開していることが判





明しました。この中世集落のあり方は、今治地域の集落構造を考える上で、一つのモデルになる可能性があります。

近世では、C区で地山を削りだした基壇状の高まり（基壇状遺構）を検出しました。この基壇状遺構は『越智郡地図』に描かれている大己貴神社オホニキノカミの可能性が考えられ、D区とC区、G区ではこの遺構に向かう参道と考えられる溝状遺構が検出されました。しかしながら、この遺構は残存状況が悪く、礎石や礎石据付穴などを検出



することができず、基壇の原型をほとんどどめていませんでした。

別名端谷Ⅲ遺跡の発掘調査を実施したことにより、本遺跡が所在する丘陵一体の様相を把握することができました。周辺の発掘調査成果も踏まえながら、別名地域の集落動向などを解明することが期待されます。

（青木）



G. 辻町遺跡 4次

つじま
ちよじ
ついで
せきよじ

中世の水田とその周辺

都市計画道路松山駅西口南江戸線建設工事

調査期間：令和3年11月～令和6年1月 調査面積：323㎡
担当者：石賀睦子 宮城めぐみ



愛媛県では、JR松山駅付近連続立体交差事業の一環として、都市計画道路事業「松山駅西口南江戸線」の整備が進められています。発掘調査は、この一帯に広がる辻町遺跡の記録保存を目的として、令和3年度からおこなっています。

今回は、令和4年度調査地の南東にあたる2区画(A1区・A2区)を対象に調査をおこないました。

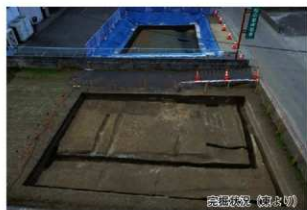
辻町遺跡は松山平野の低地に位置します。この一帯は宮前川の旧河道と微高地が入り組んだ複雑な地形で、小高い場所は古墳時代と中世のころに生活の場として利用されていたようです。今年度の調査箇所では、中世の遺構と遺物を発見しました。

検出した遺構は溝17条です。調査区から柱の穴や土坑は検出していないことから、居住空間ではないことがうかがえます。今年度調査箇所の北西方向にあたるE2区では、無数の足跡と水路を検出しており、水田があったことが推測できます。A2区でも耕作の痕跡である鋤溝が見つかっています。これらのことから、一帯は集落内の生産域にあたり、これらの溝は水路として利用された可能性が高いと考えます。遺物は、土師器の杯や皿、瓦器・東播系須恵器・輸入

陶磁器・備前焼などが出土しました。

特筆される点としては、時期によって溝の配置が変化していることが挙げられます。中世前半の溝は条里に沿った東西方向に軸をもっていますが、より新しい中世後半の溝は、北東から南西に向かって低くなる地形に合わせて、軸が傾いています。このうち、89号溝はA1区からA2区にかけて検出し、西へ続くことがわかっていますが、検出時の幅が20mを測り、検出した溝のなかで突出しています。

南江戸地区は、辻町遺跡を含め、中世の遺跡が数多く見つかったという松山平野でも有数のエリアです。今回の調査で、当時の景観をより詳細に復元することができる手がかりを得たといえます。(石賀睦子)



調査区位置図

H. 下畑地内田遺跡

しもはたじうちだ
いせき

南予地方初？中世前期の集落遺跡

一般国道56号津島道路建設

調査期間：令和5年7月～10月 調査面積：2,140㎡

担当者：藤本浩志 山口尚歩 古谷里紗子



1号井戸木製井戸側出土状況

下畑地内田遺跡は、宇和島市津島町下畑地の芳原川中流部河岸段丘の左岸、保場川との合流地点付近に位置します。

掘立柱建物6棟・横列8条・井戸1基・溝2条・土坑5基・柱穴、小穴387基の遺構を検出し、遺物は貿易陶磁器(青磁碗・皿、白磁碗・皿)、瓦器(碗・小皿)、須恵器(東播系須恵器鉢・亀山焼甕)、土師器(碗・皿・杯)、瓦質土器(土釜)、土師質土器(土鍋)、木製品(木製井戸側の隔柱・縦板・横棧など)、石器などが出土しました。

これらのことから当遺跡が中世前期(12世紀中頃～14世紀頃)の集落跡であったことが分かりました。周辺地域で、山城跡などの中世後期の遺跡は知られていましたが、この時期の集落遺跡が調査された事例はなく、中世前期の津島町の歴史を知る上で大きな成果となりました。

1号井戸は、直径約2m・深さ約1.5mを測り、内部からは木製の井戸側が出土しました。井戸は、①地上に設ける「井桁」、②地下壁面の崩落を防ぐ「井戸側」、③湧水を溜めるため底に設ける「水溜」の大きく3つの部分に分けられ、これまでの研究で井戸側の構造などにより数種類に形式分類されており、今回確認された井戸は「縦板組隔柱横棧どめ井戸」と考えられます。このような構造の井戸は県内では、片山内福岡遺跡(今治市)、馬越遺跡(今治市)や平田七反地遺跡(松山市)などの中世集落遺跡において4例確認されています。これら4例の井戸は、井戸側が約10～20cm程度の幅

の揃った縦板で組まれ、底面が一段下がった水溜に曲物が据え置かれるようですが、下畑地内田遺跡の井戸は底面がほぼ平坦で水溜はなく、縦板の幅は①約25cm・②約30cm・③約40cm・④約50cmを測る。比較的幅広の板が数種類使用されるなど、若干の違いも確認できました。これらの縦板は井戸製作のために準備されたものではなく、元々は他で使用されていた部材を、井戸側に転用して再利用をした可能性も考えられます。

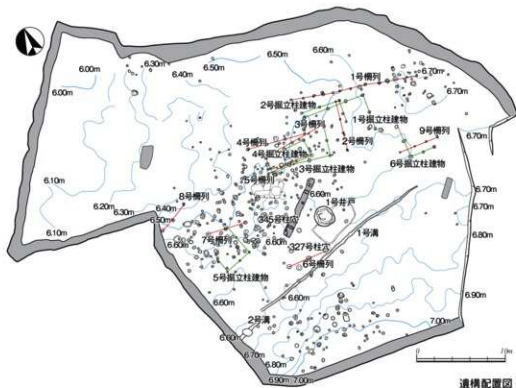
(藤本)



白磁皿出土状況



土師器碗出土状況



遺構配置図

1. 音無城跡 おとなしじょう

「國松土佐守俊次」の居城

一般国道56号津島道路建設

調査期間：令和5年5月～10月 調査面積：2,800㎡
担当者：藤本浩志 山口真歩 古谷甲砂子



音無城跡は、宇和島市津島町上畑地の丘陵上に位置しており、西側には芳原川が流れ、北側丘陵上には鶴ヶ森城跡があります。文献に、「津島殿の属城にして國松土佐守俊次居る其高藤五郎上畑地の庄屋となり伊達領に至り下村に移住し後高田村の庄屋となり三寶寺殿の墳廟を守り石丸伊左衛門の次男藤兵衛を養ふ。」という記述があり、「國松土佐守俊次」という人物が城主であったようです。

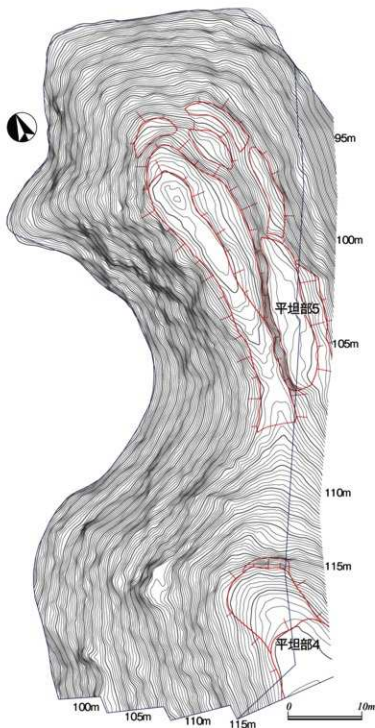
調査では、まず調査区内に数箇所のトレンチを設定・掘削して土層堆積状況を把握しました。調査区北側および東側はトレンチ掘削の結果、自然地形であることが分かり平坦部4・5を主体に人力で表土除去を行いました。調査区西側の斜面部は急峻で危険なため、航空写真撮影による測量調査のみを実施しました。

平坦部4では、柱穴の検出と地山成形の痕跡を捉えることができました。調査範囲が狭小なため、明確な柱の並びは不明ですが、掘立柱建物が建てられていた可能性があります。また、地山斜面を階段状に成形していた痕跡は、平坦部を造成する際に土砂の流出を防止するなどの工夫であったと考えられます。

今回の調査で炭化物は確認できましたが、土器や石器などの遺物が出土しなかったため、山城が機能していた時期は不明です。文献や築城

方法などから15～16世紀代の時期と想定していますが、今後の整理作業において出土した炭化物を分析することで、詳細な時期が判明するかもしれません。

(藤本)



調査前地形測量図

D. 新谷森ノ前遺跡 2次

にやもりのまえ
いせき
にし

弥生時代中期後葉の鍛冶工房を伴う集落

一般国道196号今治道路建設

発行時期：令和6年3月 調査面積：75,250㎡
報告書担当者：石賀弘泰（編） 中野邦子（編） 柴田千子 栗松真也
百藤久土 沖野 実 増田晴美 山口真歩 百木聡志



一般国道196号今治道路建設にともない、平成24年度から平成30年度にかけて今治市新谷で新谷森ノ前遺跡2次の発掘調査を実施しました。令和2年度に新谷森ノ前遺跡2次の第1分冊（木質遺物編）を刊行し、令和5年度は第2分冊目（縄文時代～古墳時代前期北部編）を刊行しました。

新谷森ノ前遺跡は今治平野の西南部に位置します。1次調査では2本の低位段丘とそれらに挟まれた浅谷が調査され、木質遺物や弥生時代中期後葉の土器などが出土しています。2次調査地は1次調査地の南西にあたり、複数の低位段丘と浅谷を横断する場所に当たります。

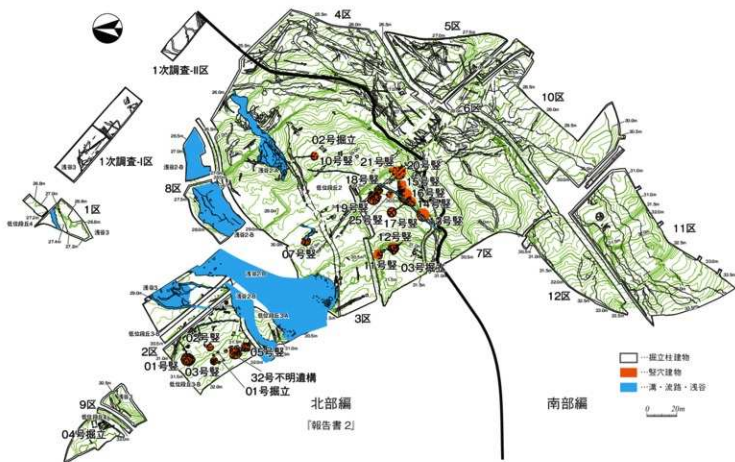
縄文時代では、遺構は認められなかったものの、縄文土器が主に浅谷から出土しました。こ

のことから、調査地外のより標高の高い段丘・丘陵上に縄文時代の集落が存在していたと推測しました。

弥生時代～古墳時代前期では、竪穴建物18棟・掘立柱建物4棟・土坑144基・性格不明遺構9基・溝83条・流路8条などがみつかりました。

竪穴建物18棟は低位段丘上でみつかり、これらは弥生時代中期中葉から古墳時代前期にかけてのもので、出土した土器などから、同じ時期に建てていた建物数は1棟から数棟程度と想定されますが、約400年間にわたって人々の暮らしが営まれていたことがわかりました。

弥生時代中期後葉では、簡易な構造の鍛冶炉をともなう竪穴建物（16号竪穴建物）が1棟みつかりました。この竪穴建物からは鍛冶にと



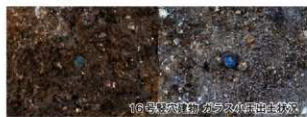
新谷森ノ前遺跡 全体図



もなう鉄片や鉄器の未製品などが出土し、建物の埋土内や床面からガラス小玉(カリガラス)も35点出土しています。鍛冶作業自体は鉄素材を打ちのぼしたり、折り曲げたり、鑿で切ったりと簡易な作業であったと想定されます。弥生時代のカリガラス製の小玉は、インド～東南アジアで生産されたものということがわかっています。

浅谷や浅谷に流れ込む溝には、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺物が多量に含まれていました。これらの浅谷や溝からは、主に弥生時代後期に属する龍や船などが描かれた土器も出土しています。

今回の調査では、鍛冶工房や海外製のガラス



小玉、龍や船の絵画土器の存在から、新谷森ノ前遺跡は弥生時代の今治平野において拠点的な集落であったであろうことがわかりました。ただし、今回検出した竪穴建物は低位段丘の縁辺に位置することや浅谷出土の多量の遺物から、当該時期の集落域は調査区より外の南西方向にまで広がるものと考えられます。

(石貫弘泰)



龍が描かれた土器(絵画部分を青色に着色)

報告書刊行にむけて作業中の遺跡

報告書刊行に向けての作業を私たちは「整理作業」と呼んでいます。

出土遺物に関して行う作業は、まず水洗いする「洗浄」・出土情報を直接書き込む「注記」・破片をつなぎ合わせて足りないところを石膏や樹脂で補う「接合・復元」・観察を行い図化して報告書に掲載できるようにする「実測・トレース」・「写真撮影」など多岐にわたります。

現場から持ち帰った遺構の測量図は全体および個別の遺構ごとにトレースを行います。

これらの基礎的な整理作業を行ったのち、遺物・遺構およびその他の情報をあわせて多元的に分析・検討しながら報告書を作成していきます。

整理作業中の遺跡

○新谷森ノ前遺跡2次

担当者：柴田 圭子 桑松 真也
石貫 弘寿 首藤 久士
沖野 実 山口 莉歩
中野 邦子 古谷里砂子

○新谷古新谷遺跡2次

○新谷赤田遺跡

担当者：松村 さを里 藤本 清志
西川 真美 土井 光一郎
岡 美奈子 富山 亜紀子

○北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡 南竹ノ下遺跡

担当者：池尻 伸吾

○辻町遺跡4次

担当者：石貫 隼子 宮城めぐみ

遺物洗浄	遺物注記	接合・復元
遺物実測 (土器)	遺物実測 (石器)	遺物情報確認
デジタル トレース	遺物写真撮影	報告書編集



古代いよ発掘まつり

速報展前期展
「ほったぞな松山2023」

愛媛県埋蔵文化財センター・
松山市立埋蔵文化財センター主催

Ⅱ 普及活動事業

令和5年 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3月
開催期間 7/15(土) - 9/10(日)

開催場所 松山市考古館

長子
報告数 1361名

報告会

内容	開催日	開催場所	報告者	参加者数
「辻町遺跡4次調査の調査成果」	令和5年8月26日(土)	松山市考古館	石貫幹子(愛媛県埋蔵文化財センター)	23名



「古代いよ発掘まつり」は、平成24年度より愛媛県教育委員会・松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターとの連携事業として開催しています。

前期展「ほったぞな松山」は松山市内で前年度発掘調査が行われた遺跡の速報展で、当センターからは辻町遺跡を紹介しました。

辻町遺跡は令和3年度から発掘調査を行っており、令和4年度は古墳時代(5世紀後半ごろ)のカマドを設えた竪穴建物7棟のうち、カマドやその周辺に土器を並べ、廃屋儀礼をおこなったとみられる建物に関する展示をしました。

松山市埋蔵文化財センターからは弥生時代～古墳時代の桑原遺跡8次・古墳時代の下難波(しもなみ)廃折遺跡・近世の持田本村遺跡などが紹介されました。

(松村)



古代いよ発掘まつり

速報展後期展

「いにしへのえひめ 2023」

愛媛県埋蔵文化財センター・
松山市立埋蔵文化財センター主催



講演会・報告会・講座

内容	開催日	開催場所	講演者・報告者・担当者	参加者数
講演会「愛媛県出土の平安時代の緑釉陶器」	令和5年9月30日(土)	松山市考古館	高橋順平 [大阪大学大学院人文学部研究科教授]	58名
報告会 ①「別名端谷Ⅰ遺跡2次の発掘調査成果」 ②「北竹ノ下Ⅰ遺跡・桜井遺跡・紫宸殿遺跡の発掘調査成果」	令和5年10月14日(土)	松山市考古館	①青木聡志(愛媛県埋蔵文化財センター) ②増田晴美(愛媛県埋蔵文化財センター)	32名
親子考古学講座「土器洗浄と土器復元体験(整理作業)」	令和5年10月28日(土)	愛媛県埋蔵文化財センター	松村さを里・西川真美・土井光一郎・石貫弘泰・岡 美奈子・富山亜紀子	県内の小中学生と保護者 40名

2023
いにしへのえひめ
 9月16日(土)～11月26日(日)
松山市考古館
 愛媛県埋蔵文化財センター・松山市立埋蔵文化財センター主催
 9月16日(土)～11月26日(日)
 松山市考古館
 愛媛県埋蔵文化財センター・松山市立埋蔵文化財センター主催

後期展「いにしへのえひめ」は、松山市以外の県内各地で愛媛県埋蔵文化財センターが前年度発掘調査を行った遺跡の速報展で、別名端谷Ⅰ遺跡2次のほか、北竹ノ下Ⅰ遺跡・桜井遺跡・紫宸殿遺跡を紹介し、報告会と講演会を行いました。

今治市別名端谷Ⅰ遺跡2次は、県内最多の出土となる平安時代の緑釉陶器や、「野萬」の文字が書かれた奈良時代の土器を展示しました。

このほか、西条市北竹ノ下Ⅰ遺跡の弥生時代後期の集落、西条市桜井遺跡・紫宸殿遺跡で確認された中世の区画溝などを紹介しました。

親子考古学講座は、新しい試みとして土器洗浄と土器復元体験を行いました。「本物の土器にふれる体験ができてよかった」、「土器の復元はバズルみたいで楽しかった」と好評でした。

(松村)



伊予の前期古墳

～古墳時代の初期前方後円墳を探る～

愛媛県埋蔵文化財センター・
愛媛県生涯学習センター 共催

開催 期間	令和5年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	令和6年
	5/27(土)	7/9(日)												
開催 場所	愛媛県生涯学習センター内 愛媛県人物博物館													
定員 人数	778名													

学びあえひめ 歴史・考古学講座 (愛媛県生涯学習センターで開催)

講座名	開催日	講演者	参加者数
第1回 「西四国および西部瀬戸内の前期古墳」	令和5年5月28日(日)	山内英樹(松山市役所)	55名
第2回 「西予市笠置神古墳と小森古墳の発掘調査成果」	令和5年6月4日(日)	兒玉洋志(西予市教育委員会)	49名
第3回 「伊予の初期前方後円墳の展開とその視点」	令和5年6月18日(日)	下條信行(愛媛大学名誉教授)	69名



令和5年度は、前期古墳をテーマに東予・中予・南予の初期前方後円墳の調査研究をふりかえり、伊予の前方後円墳の特徴を紹介しました。

東予では、当センターが発掘調査を行った西条市の久保1号墳や今治市の高橋仏師4号墳、愛媛県教育委員会が調査した相谷1号墳(今治市)の副葬品、旧大西町と愛媛大学が調査した妙見山1号墳(今治市)の伊予型特殊石台などを展示しました。

また南予では、西予市の笠置峠古墳や小森古墳について、左右非対称のいびつな墳形や墳丘での土器祭祀など近年の調査成果を公開しました。(松村)

ミニ企画展

「一般国道196号今治道路関連 五十嵐鼻遺跡 発掘調査速報展 —丘陵裾に現れた中世後期の方形居館—」



現地説明会

遺跡名	開催日	開催場所	参加者数
A:宮無城跡・下郷地内田遺跡 発掘成果報告会	令和6年1月21日(日)	宇和島市立岩松公民館	30名
B:別名端谷川遺跡ほか 別名・小泉地区発掘成果報告会	令和6年3月10日(日)	愛媛県埋蔵文化財センター 今治小泉事務所	70名
C:宮之内遺跡 金銅五輪塔形舍利容器一般公開	令和6年3月23日(土)	西条市立東予郷土館	320名



A:宮無城跡・下郷地内田遺跡



A:宮無城跡・下郷地内田遺跡



B:今治市別名・小泉地区

「職場体験」

開催日	参加名数	開催場所	担当者
令和5年 9月6・7日(水・木)	4名 (松山市立久米中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村志希里 西川真美 富山登紀子
令和5年 9月12・13日(火・水)	2名 (松山市立南中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村志希里 西川真美 富山登紀子
令和5年 9月14・15日(木・金)	2名 (松前町立松前中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村志希里 西川真美 富山登紀子
令和5年 10月17・18日(火・水)	2名 (伊予市立港南中学校)	愛媛県 埋蔵文化財センター	松村志希里 西川真美 富山登紀子



Ⅲ その他の事業

1. 出版物等への資料提供

提供資料	提供先	掲載物
新谷森ノ前遺跡：龍の繪面土器 新谷古新谷遺跡：瓠蒂文土器・土器文様写真3点	(株)雄山閣	『季刊考古学 別冊41』『四国考古学の最前線』 2023年5月25日刊行
阿方遺跡：方形木甲片写真1点	(株)雄山閣	『季刊考古学 165』特集「古墳時代の甲冑」 2023年10月25日刊行
新谷古新谷遺跡：「凡造万呂」刻書須恵器写真1点	安芸市立歴史民俗資料館 (高知県)	高知新聞(奈良文化財研究所 資料研究室長 馬場基氏執筆原稿「一大海を越えた土佐の名族」) の参考写真)
新谷古新谷遺跡：「凡造万呂」刻書須恵器写真1点	安芸市教育委員会 (高知県)	安芸市発行冊子「安芸市瓜尻遺跡—発掘された古 代遺跡—」2024年3月31日刊行

2. 展示会等への資料提供

貸出・提供資料	提供先	掲載物
別名寺谷1遺跡：繪面土器写真1点	五百亀記念館 (西条市)	五百亀記念館開館10周年記念企画展「新しい 五百亀記念館のからし〜「まるっと日本画〜 集家たちの華美編〜」展示、展示会に関わる印 刷物(展示解説書)掲載
片山1号墳：石室敷石状況 高橋仏師4号墳：第1号主体部・木棺復元状況ほか写真16点	愛媛県歴史文化博物館	令和5年度テーマ展「今治平野の古墳文化」写 真・パネル展示、ホームページ・学芸員ブログ等 掲載
上分西遺跡東安地区：調査全景 上分西遺跡-2区足跡検出状況ほか写真24点	西国中央市 歴史考古博物館	西国中央市発掘調査速報2023「遺跡はばくらの あしもとにある」展示・解説、広報用ホームペ ージ掲載
南江戸岡目遺跡2次：温石写真1点	NHK 松山放送局	西国地方向け地域情報番組「ギョッと！西国」気 象コーナー「サクッと天気」内で紹介
下畑地内田遺跡：出土遺物34点	宇和島市教育委員会	「津島道路関連発掘調査成果展」(若松公民館1F 宇和島市立中央図書館津島分館 ロビー)展示
持田町3丁目遺跡：玉頸 宮前川遺跡：土骨写真2点	松山市考古館	令和5年度 松山市考古館 特別展「弥生時代のヤ マト〜奈良県唐古・鍵遺跡から縄遺跡〜」展示 (展示パネル)・展示会に関わる印刷物(展示解 説書)・SNS掲載

3. 資料見学等の受け入れ

見学資料・目的	主体団体・講座など	実施年月日	人数	実施場所(対応)
発掘調査現場の見学	今治支局新規採用等職員交流会 における現地見学会 (愛媛県東予地方局)	令和5年10月3日(火)	8名	別名塚谷川遺跡 発掘調査現場 (三好裕之)
センターの施設、作業の見学	愛媛大学法文学部集中講義 博物館資料論 (担当：幸泉満夫准教授)	令和5年12月27日(水)	40名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室 (柴田圭子・土井光一郎)

4. 奈良文化財研究所 令和5年度埋蔵文化財担当者専門研修

内容	詳細	実施年月日	参加機関・人数	実施場所
「文化財三次元計測課程(入門)」 愛媛県版	・講義：文化財調査のためのフォ トグラメトリ等の三次元計測 方法の基礎を学ぶ ・実習：SIM-MVSを利用した 三次元計測方法の実技を学ぶ	令和5年8月29日(火)	市町ほか 県内11機関 30名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室
「文化財三次元計測課程(入門)」	・講義：文化財調査のためのフォ トグラメトリ等の三次元計測 方法の基礎を学ぶ ・実習：SIM-MVSを利用した 三次元計測方法の実技を学ぶ	令和5年8月30日(水) ～9月1日(金)	11機関 12名	愛媛県埋蔵文化財センター 衣山事務所 研修室

5. 講演・講座等への職員派遣など

派遣内容	主催	実施場所	実施年月日	内容・対応職員
愛媛新聞カルチャースクール 「楽しく考古学入門編」	愛媛新聞社	愛媛県 生涯学習センター	令和5年7月8日(土)	「伊予の前期古墳」展示解説 松村さを里
		松山市考古館	令和5年8月19日(土)	「辻町遺跡4次調査の成果」 石貫睦子
			令和5年9月9日(土)	「古代社会の墳事情—都城・伊予・若狭—」松葉竜司
			令和5年11月11日(土)	「別名端谷1遺跡2次の発掘調査成果」青木聡志
令和5年12月9日(土)	「北竹ノ下1遺跡・桜井遺跡・紫雲殿遺跡の発掘調査成果」増田晴美			
令和5年度 歴史文化講座	愛媛県 歴史文化博物館	愛媛県 歴史文化博物館	令和5年9月2日(土)	「西条市の発掘調査成果②—北竹ノ下1-ii遺跡・桜井遺跡の調査成果—」池尻伸吾
令和5年度 コミュニティカレッジ 「愛媛の埋蔵文化財講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 生涯学習センター	令和5年9月12日(火)	「別名端谷1遺跡2次調査の発掘調査成果」青木聡志
			令和5年11月14日(火)	「伊予の前期古墳 妙見山1号墳の調査」松村さを里 ※南予会場に同時配信
令和5年度 南予コミュニティカレッジ 「愛媛の埋蔵文化財講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 歴史文化博物館 [オンライン講座]	令和5年11月14日(火)	「伊予の前期古墳 妙見山1号墳の調査」松村さを里 ※中予会場からの同時配信
令和5年度 「西条市考古歴史館考古学講座」	西条市考古歴史館	西条市考古歴史館	令和5年11月12日(日)	「中世の西条」首藤久士
令和5年度 東予コミュニティカレッジ 「歴史講座」	愛媛県 生涯学習センター	愛媛県 総合科学博物館	令和5年11月19日(日)	「弥生時代における石器の生産と流通」栗松真也
八幡浜市「歴史・文化探検」学習会	八幡浜市 教育委員会	萩森城跡 (八幡浜市高野地)	令和5年12月9日(土)	踏査：藤本清志
第5回文明動態学研究所文化遺産 マネジメント部門公開講座 「陶磁器が語る中世瀬戸内海」	岡山大学文明動態 学研究所文化遺産 マネジメント部門	岡山国際交流 センター 7階多目的ホール	令和6年2月3日(土)	「瀬戸内海の貿易陶磁の様相」 柴田圭子
沖縄県教育庁埋蔵文化財センター 第97回文化講座	沖縄県立 埋蔵文化財センター	沖縄県立 埋蔵文化財センター 研修室	令和6年2月18日(日)	「首里城京の内跡出土陶磁器の価値と魅力」柴田圭子
お仕事フェスタ2024	学校法人 河原学園	アイテムえひめ 大展示場	令和6年3月16日(土) ・17日(日)	職業紹介：首藤久士・石貫睦子
東予史談会研修会	東予史談会	西条市立 東予郷土館	令和6年3月23日(土)	「空之内遺跡発掘調査について」 松葉竜司

6. 職員の委員等就任状況

職員名	委員名	期間
柴田圭子	松山市文化財保護審議会委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日
	今治市文化財保護審議会委員	令和2年11月1日～令和6年10月31日
	砥部町文化財保護審議会委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日
	史跡能島城跡調査・整備検討委員会委員	令和5年4月1日～令和6年3月31日
松葉竜司	福井県美浜町歴史文化館運営委員	令和4年8月19日～令和6年3月31日

7. 各種団体への職員派遣など

内容(依頼団体)	派遣先	日時	対応職員
平城京出土製埴土器に関する指導・助言 (奈良文化財研究所)	奈良文化財研究所 (奈良県)	令和5年5月26日(金)・27日(土)	松葉竜司・青木聡志
「瀬戸内海から見た高地性集落」―紫雲山遺跡を対象とした双方向の視認検証実験― (愛媛大学埋蔵文化財調査室)	芸子諸島・備讃瀬戸・ 瀬川の海上	令和5年7月31日(月)	栗松真也
令和5年度 才上遺跡出土遺物に伴う整理及び分析の指導(伊仙町教育委員会)	伊仙町歴史民俗資料館 (鹿児島県)	令和5年10月25日(水)~28日(土)	柴田圭子
「跡の窟1号墳副葬品」の資料化 (伊予市教育委員会)	伊予市文化交流センター	令和5年10月27日(金)	石貫弘泰
伊予国府探索事業に対する協力、助言 (今治市教育委員会)	今治市教育委員会	令和5年10月31日(火)	柴田圭子・松葉竜司・ 首藤久士・青木聡志
科学研究費基盤B「16世紀西日本港町の構造と相関―文献・考古学資料の国際・横断的分析による―」(代表:岡美穂子) (東京大学史料編纂所)	沖縄県立博物館 (沖縄県)	令和5年11月2日(水)~4日(土)	柴田圭子
科学研究費基盤研究A「琉球王国の海上交通路の研究―一次没船、港湾、船番・地図資料の総合調査」(代表:森達也) (沖縄県立芸術大学)	沖縄県立芸術大学ほか (沖縄県)	令和5年12月8日(金)~12日(火)	柴田圭子
四国八十八ヶ所霊場 第55巻礼所 南光坊の発掘調査に関する協力 (愛媛県教育委員会文化財保護課)	別當山 金剛院 南光坊	令和6年2月28日(水)	三好裕之・山口節歩・ 青木聡志
国史跡大友遺跡(大友館跡)出土中国元様式青花瓷についての調査指導 (大分市教育委員会)	大分市埋蔵文化財 保存活用センター (大分県)	令和6年2月29日(木)~3月2日(土)	柴田圭子
松山大学経済学部講義 「地域史(1)」・「地域史(2)」非常勤講師 (松山大学)	松山大学	令和5年度通年(前期・後期) 毎週木曜日4限	栗松真也

8. 図書資料の収集・登録・貸出し

関係団体が発行する報告書・埋蔵文化財関連書籍等を収集し、登録・保管(令和5年度新規登録図書数:1,546冊・総登録数:81,295冊)のうち、大学など関係者等への貸出を行った。

9. ホームページ・X(旧 Twitter)による情報発信

公式ホームページ、および令和3年度より運用を開始したX(旧 Twitter)アカウントから、業務におけるトピックやエピソード、共催展の告知、報告、関連団体アカウントのリポート等の情報発信を行った。



IV 組織

役員等（令和6年3月末日現在）

理事

理事長	前岡 實知雄	奈良芸術短期大学 特任教授、京蓮寺(東蓮山)住職、奈良県立橿原考古学研究所 特別指導研究員
常務理事	藤田 亨 (令和5年6月)	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 事務局長
	藤原年克 (令和5年7月)	(公財)愛媛県埋蔵文化財センター 事務局長
理事	栗田 正巳	愛媛大学 非常勤講師、光松山薬高校長
	加藤 令史	愛媛新聞社 代表取締役社長 社長執行役員
	梅木 謙一	(公財)松山市文化・スポーツ振興財団松山市立埋蔵文化財センター所長 兼 松山市考古館長
	渡部 真司	愛媛県教育委員会 文化財保護課課長
監事	宇都宮 欣毅	税理士

評議員

下條 信行	愛媛大学 名誉教授
名本 二六雄	愛媛考古学協会 名誉会長
豊田 将光	愛媛銀行 常務取締役
足立 一志	松前町教育委員会 教育長
日見田 貴彦	愛媛県教育委員会 副教育長

令和5年度職員（令和6年3月末日現在）

事務局長	藤田 亨 (令和5年6月)	藤原年克 (令和5年7月)
------	------------------	------------------

総務課

総務課長 (専任局長が専任担当)	藤原年克
専門事務員 ・担当係長	河野 有美
主任事務員	芳野 伸吾
事務補助員	芝 加納子

調査課

調査課長	栗田 圭子								
主・副課長	三好 裕之	乗松 真也							
専門調査員 ・担当係長	松村 さを里	池尻 伸吾	松葉 竜司						
専門調査員	藤本 清志								
主任調査員	西川 真美	土井 光一郎	石貫 弘泰	首藤 久土	沖野 実	増田 晴美			
	石貫 睦子								
調査員	山口 莉歩	青木 聡志	佐藤 直人						
主任調査助手	岡 美奈子	田中 いづみ							
調査助手	中野 那子	富山 亜紀子	佐野 祐樹	岡本 真治	古谷 里砂子	宮城 めぐみ			
	堀田 晴香								

令和5年度に刊行した書籍（調査報告書以外）

- 「紀要愛媛」第19号
- 「愛比売」令和4年度年報



<http://chime-maibun.or.jp/>



https://twitter.com/chime_maibun



えびめ
愛比売

2023(令和5)年度年報
～発掘調査事業および普及活動事業の記録～

2024(令和6)年5月

編集・発行 公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター
〒791-8025 愛媛県松山市衣山四丁目46番地1
TEL(089)911-0502 FAX(089)911-0508
印刷 株式会社ハラブックス



許諾番号：3008034

愛媛県イメージアップキャラクター
みきゃん・ダークみきゃんと大型器台